2006年01月05日

2006年 社長（西尾　進路）年頭挨拶について

記者各位

　新年明けましておめでとうございます。1月5日（木）、当社社長、西尾　進路は本社にて下記の通り年頭挨拶を行いましたのでお知らせいたします。

＜要旨＞

1．2005年を振り返って
当社は2005年4月に第3次連結中期経営計画をスタートさせた。この中期経営計画の期間は、当社の基本戦略である『一貫操業体制』『総合エネルギー企業グループ体制』を確立し、将来に亘って飛躍するための ‘基礎固めの時代’ である。
　こうした考えに基づき、昨年は様々な施策を展開した。すなわち、グループ組織体制の改革、CRIや上流事業などの数々の戦略投資、帝国石油と国際石油開発、および両社の統合会社との業務・資本提携、潤滑油事業での海外における工場新設決定、CSR推進体制の改正など内部体制の強化である。

2．2006年の重点課題
「経営のさらなる質的向上」を追求するべく、「質の向上の確立」「『選択と集中』に基づく戦略投資の実行」「CSR経営の推進強化」の3点を重点課題に掲げたい。

（1）「質の向上の確立」･･･「量から質への転換」の本質は、良い商品を他より安く作り、適正な価格で販売し、得た利益をさらに良い商品やサービスの開発に充当していくことだ。この好循環を生むことが、ブランド価値の向上、お客様からの信頼と支持の獲得に繋がる。
（2）「『選択と集中』に基づく戦略投資の実行」･･･投資に際しては、あらゆる角度からの収益性検討と徹底したリスク管理が不可欠である。一方で、既存の事業についても、常にゼロベースで評価し、撤退する勇気も併せ持ち、きめ細かなフォローの実施が大切である。
（3）「CSR経営の推進強化」･･･新日本石油グループは、CSRの柱を6本掲げている。すなわち、コンプライアンス、環境安全、品質保証、人間尊重、情報セキュリティ、社会貢献である。今年は、このCSR体制・仕組みを十二分に機能させることが重要であり、そのためには、一人ひとりが高い倫理感を持ち、リスクに対する感度を高め、日常の業務遂行において常にCSRを心がけることが重要である。

3．グループ社員への期待
2006年のキーワードは、「変革へのチャレンジ」であり、社員の皆さんはたゆまぬ努力を続けていただきたい。
　2006年3月で特定石油製品輸入暫定措置法の廃止からちょうど10年が経過する。石油業界にとってこの10年間は激動の時代であり、合併や精製設備の廃棄などの数々の試練を乗り越えてきた。
　この間、社員の皆さんは健全な危機感を抱きつつも、夢を持って将来に向けた変革に取り組んできた。これからの10年も、「変革こそが成長の鍵である」との認識に立ち、皆さんのたゆまぬ努力・研鑽、そして将来の大きな成果を期待する。

以上